



みくびだより

発行 御首神社社務所

御挨拶

拝啓 師走の候、皆様方におかれましては愈々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年十月、天皇陛下下の譲位に際し、当初は平成三十年十二月三十一日のご退位の日と予定されておりましたが、年末年始に重要な宮中行事が重なることに配慮し、平成三十一年三月三十一日を以って今上天皇のご退位になり、翌四月一日より皇太子殿下が新しい天皇陛下へご即位なされることが発表されました。それに伴いまして、儀式のあり方について検討する準備組織を作る方向で調整が進められており、今後の皇室会議等にて譲位の日程を含む詳細が定められて行きます。

また、皇后陛下におかれましては十月二十日に目出度く八十三歳のお誕生日をお迎えあそばされ、天皇陛下下の譲位について「長い年月、ひたすら象徴のあるべき姿を求めてここまで歩まれた陛下が、御高齢となられた今、しばらく安息の日々をお持ちになれると言うことにはかりしれぬ大きな安らぎを覚え、これを可能にして下さった多くの方々に深く感謝しております。」とご書面にて述べられました。

天皇陛下下の譲位につきましては、未だ多くの議論と調整を要する事と思いますが、両陛下のお気持ちに沿い合うより良い形で納められるよう、国をあげて進めて頂きたいと切に願います。現在、新年を清々しく迎えられますように、職員一同万全の正月準備を進めております。皆様方には、御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受され、愈々の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

宮司 三浦 篤

祭事報告

▼西宮神社（相殿社）例祭

七月十七日

本殿相殿社にて、蛭子命をお祀りしております西宮神社の例祭を滞りなく斎行致しました。

蛭子命と言いますと、商売繁盛や事業繁栄の御神徳で知られております。

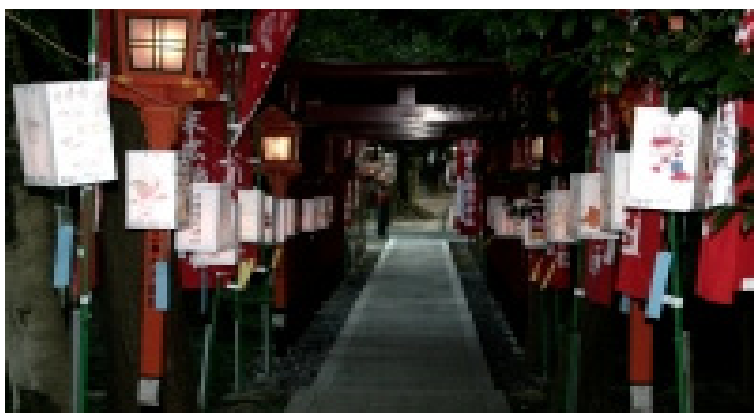
当社は首上の神さまとして多く崇敬を集めておりますが、商売繁盛でのご参拝もお勧め致します。

▼末廣稲荷神社（境内社）例祭

八月六日



〈末廣稲荷神社例祭：祝詞奏上〉



〈末廣稲荷神社例祭：子供たちの行燈〉

末廣稲荷神社は境内の東北に位置し、京都の伏見稲荷大社より御分霊を賜り、宇賀之御霊をお祀りしております。

神社総代を始め、氏子の皆様が参列する中、肅々と神事が執り行われました。

例祭当日、末廣稲荷神社の参道を華やかに飾る行燈は、氏子の子供たちが一生懸命描いてくれた絵で出来ております。

▼夏越大祓

八月六日

稲荷神社例祭後、境内の遥拝所前にて斎行致しました。神職による大祓詞奏上の後、祓つ物を八つに取り裂き、皆様が半年の間、知らず知らずに受け犯している罪・穢を人形に託して忌火にてお焚き上げ致しました。茅の輪くぐり神事は夕方まで行われ、多くの参拝者が参加されました。

▼長寿祈願祭

九月十五日

宇留生地区の長寿会の皆様をお招きし、健康長寿をご祈念致しました。毎年、ご長寿の方々の元気な姿に、逆に元気を頂いております。

▼神明神社（境内社）例祭

十月十七日

本殿北西に鎮座し、天照大御神をお祀りする神明神社の例祭を滞りなく斎行致しました。

毎年、神事が終わると数箇所蚊に刺されていることに気づきます。十月はまだまだ蚊取り線香が手放せません。

▼崇敬会大祭

十一月三日



〈崇敬会大祭〉

一年に一度行われる、崇敬会会員ための大祭です。県内外より多くの会員の皆様にご参列頂き、盛大に執り行われました。ご神前に大祭祈禱神符が奉られ、大祭終了後に参列者へ記念品と共に授与されました。

崇敬会会員の皆様には、この大祭への参列や、年に一度伊勢への研修旅行（日帰り）なども開催されます。詳しくは六頁の崇敬会入会のご案内をご覧ください。

これを機に、未入会の方は是非ともご入会頂き、会員の皆様は周りの方々をお誘い頂けましたら幸いです。

▼新嘗祭

十一月二十三日

今年の六月にお田植祭・農休祭を斎行し、職員の手により大切に育ててきた初穂をご神前にお供え致しました。

新嘗祭は三大祭（例祭・祈年祭新嘗祭）の一つとして大変重要なお祭りです。初物を神さまに召し上がって頂き、五穀豊穰への感謝と共に、皇室の安寧及び国家の安泰を祈願致しました。

ご神前に供えられた初穂は、一粒一粒取り分け、ご祈祷のお下がりとしてお頒ちされます。



〈新嘗祭：初穂のお供え〉

▼七五三参り

十一月中



〈七五三の記念撮影〉

本年も十月に入ると七五三参りのご家族を見かけるようになり、十一月にはそれこそ多くのご家族の参拝があり、特に土日は境内やご祈祷控室で賑やかな声が飛び交っていました。

いざご祈祷が始まると、慣れない着物姿と慣れない祈祷に緊張し顔を強張らせる子もおりましたが、お下がりを受け取ると、皆満面の笑みを見せてくれました。

諸祭典（抜粋）

▼月次祭 毎月一日二十日

神職への質問 Q & A

最近、入居前のお祓いに何うと、神棚をお祀りされないと何うご家庭が増えてきています。何故かとお尋ねしますと、よく分からないからとか、決まりが難しそうと言った声を聞きます。

当社のホームページにも神棚に関するページが有り、過去の社報にも神棚に関する問答も掲載しておりますが、改めて神棚に関する質問の中で、お祀りのしかた（設置）と日ごろのお世話について揚げてさせて頂きます。

問 神棚をお祀りする場所と向きに決まりは有るの？

答 清浄な場所で南向きか東向きにお祀りする事が基本です。

問 お供えは毎日取り変えるの？

答 お供え物は毎朝お供えし、夕方にはお下げする事が基本です。

纏め ・ ・ ・これだけ聞くと、何やらハードルが高そうですね。場所や向きに拘ってお参りし難くなった、毎日のお供えが無理で、放置状態になった、と言う状態になりかねません。

しかしながら、これはあくまでも基本形・理想形のお話です。勿論この基本を理解された上で、各ご家庭の事情に合わせ、ご家族の皆様が毎日お参りし易い場所へお祀りし、お供えなども生活上可能な範囲で行い、日々感謝の気持ちでお参り頂ければ良いのです。

お祀りの形も大切な事ですが、それ以前にお祀りの心が一番重要なのではないでしょうか。

崇敬会からのご奉納

一、御首神社鳥居前特大幟

（二対）



一、末廣稻荷神社参道幟

（二対）



（ご奉納ありがとうございます）

神社について

一言に神社と申しましても、その信仰の形は様々です。

まずは、とある神社を核としながら広く伝播した信仰、伊勢信仰や八幡信仰を始め、多くの〇〇神社の〇〇信仰が有ります。

次に、山を神が宿る神聖な場所と崇拜し、祭祀の対象とする山岳信仰があり、白山信仰や御岳信仰・立山信仰など各山々に於いてそれぞれの信仰形態が有ります。

そして民間の信仰として発展したエビス信仰や竜神信仰など様々な信仰が有ります。

その民間信仰の中に『御霊信仰（ごりようしんこう）』と言う信仰形態が有ります。この信仰は、社会的に広範な範囲の人々を脅かすような災害の発生を、霊鬼的存在である怨霊（戦乱などで恨みを残し非業の死を遂げた者の霊）の仕業とみなし恐れ、かつこれを鎮めることにより平穏を回復し、繁栄を実現しようとする信仰です。御霊信仰は平安時代の初期に成立したといわれ、御霊を鎮めるための儀式「御霊会（ごりようえ）」

『御霊信仰』

が行われていました。御霊会の鎮めの原型の原則は、この世に浮遊している御霊を外界へと送り出すものでしたが、一方で御霊を神社の祭神として恒常的な祭祀の対象としてゆく形もありました。その代表的なものとして菅原道真（天満天神）が挙げられます。

菅原道真は右大臣から太宰権帥に左遷され二年後に没しました。その後、天変地異が多発したことにより、これは菅原道真の祟りであると恐れられ、その怒りを鎮めようと天満天神として信仰の対象とされました。

さて、当神社の由緒をご存知の方はお気づきかと思いますが、当神社も御霊信仰によって建立された神社でございます。簡単に当神社の由緒を説明致しますと、平将門は時の朝廷に憤りを覚え、乱を起します（天慶の乱）。しかしながら、藤原秀郷・平貞盛らにより鎮められ、平将門は打首にされ京に送られ晒し首にされました。その首は関東の体の元へ帰ろうと飛び立ったと言われております。首

が関東へ戻ることで再び乱や災いが起こる事を恐れ、南宮大社で祈願をしたところ、隼人神が現れて御神矢を以って飛んでゆく首を射落しました。その首が落ちた荒尾の地にて平将門を神として崇め祀ることで、その怒りを鎮め様と建立されたのが御首神社であると伝えられています。

皆様の氏神様や、よくお参りされる崇敬神社などについて、改めて御由緒や信仰の形を調べてみるとその神社への想いがまた一つ深くなるのではないのでしょうか。



〈源氏一統志より恨みを語る正門公の首〉

崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂うる者此の社に願えば霊験あらたか」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させていただきます。

会員の特典（抜粋）

- ・入会報告祭の実施
- ・誕生特別祈禱の実施及び祈禱神符の授与
- ・主要祭典のご案内
- ・昇殿参拝

会員の種類と年会費

個人	三千元
家族	五千元
特別	一万元
法人	二万円
名誉	三万円

〈お問い合わせ先〉

神社社務所まで

〇五八四一九一―三七〇〇

祭事案内

▼年越大祓

十二月三十日



〈人形(左)と封筒(右)〉

夏越大祓とは異なり、殿内にて神職が大祓詞を奏上し、その後、境内設置の篝火にて、皆様の罪穢れを託されます人形を忌み火にてお焚き上げ致します。
人形は社務所などにも設置してありますので、皆様ぜひお申込み下さい。

▼元旦祭

一月一日

一年で一番初めの神事です。毎年参道には、初詣のための行列が出来、参列者が年明けの秒読みを始める頃、午前零時より神事が斎行されます。

▼左義長

一月十五日

一年間ご守護頂きました御神符や御守に感謝を込めてお焚き上げ致します。それに併せて熊手や破魔矢などの縁起物、お正月の注連飾りや注連縄などもお焚き上げ致します。

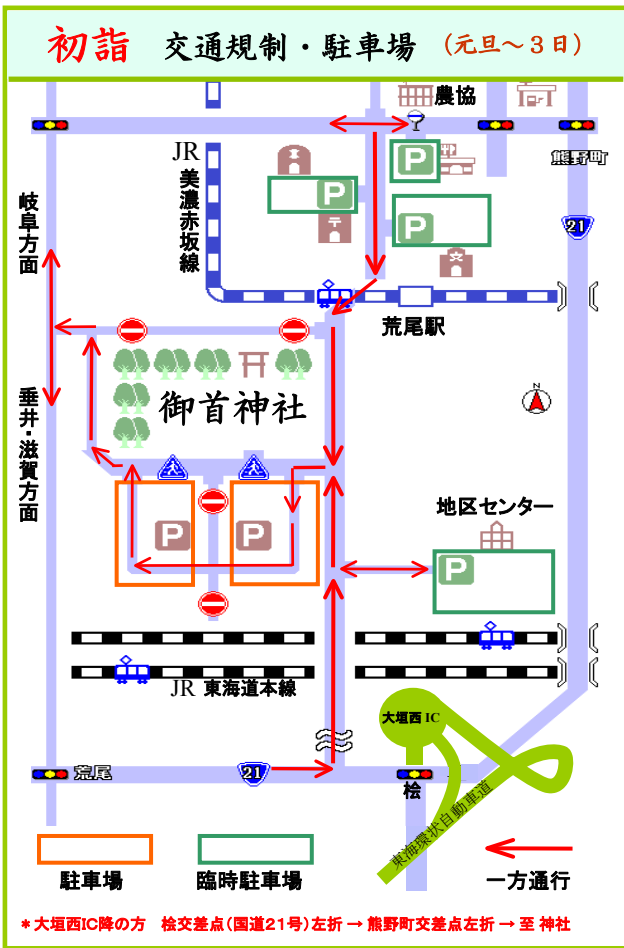
但し、注連縄・注連飾りのお持ち込みは、当日の午前中に限り受け付け致しますので（事前のお持込や、焚き上げ終了後のお持込はお断り致しております）ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

▼浄火祭

二月三日

境内に作られた大きな火炉前で行われます。神職の他に氏子の中から選ばれた厄年に当る男性が奉仕します。

本年奉納されました金幣串や絵馬・帽子などをお焚き上げ致し、心願成就・厄祓いを願う斎行されます。
尚、神事終了後より午前中に限り、不要となりました帽子の炊き上げが可能となりますので、ご不要のお帽子をお持ちになりましたらご参拝下さい。



初詣 交通規制・駐車場 (元旦～3日)

*大堰西IC降の方 検交差点(国道21号)左折→熊野町交差点左折→至神社

八方ふさぎりの皆さん

平成30年 八方ふさがり早見表

方位図

昭和	12年生
	21年生
	30年生
	39年生
平成	48年生
	57年生
	3年生
	12年生
21年生	

抜粋

ご祈禱をお受けになり
健康な毎日を
過ごしましょう

平成30年 歳祝い早見表(数え歳)

古稀	70歳	昭和 24年生
喜寿	77歳	昭和 17年生
傘寿	80歳	昭和 14年生
米寿	88歳	昭和 6年生
卒寿	90歳	昭和 4年生
白寿	99歳	大正 9年生

歳祝いのご案内

祭事案内

▼例大祭

四月二日

当神社で最も大きな祭事です。当日は子供神輿の巡幸が有り、昼過ぎには境内の特設舞台で、氏子地域の子ども達による「打ち囃子」が披露されます。また、参道脇には露天も出ております。

神事は午後三時からで、神社庁より献幣使をお迎えし、舞楽（蘭陵王）の奉納も行われ、盛大に斎行されます。



〈例大祭：修祓の儀〉

諸祭典(抜粋)

- ▼ 月次祭
- ▼ 祈年祭
- ▼ 鍛山神社例祭
- ▼ 南宮神社例祭
- ▼ お田植え祭
- ▼ 農休祭

新年 授与品・縁起物



祈願絵馬



さくら鈴



千支土鈴

他にも多数の授与品・縁起物がございます

平成三十年 初祈禱のご案内



初祈禱は、元旦祭 終了後（元旦午前零時半頃）よりお仕えいたしております。毎年、多数の皆様が我先にと御祈禱（家内安全・商売繁盛・各種受験合格・病氣平癒祈願など）をお受けになられております。輝かしい年の初めに、ご家族お揃いでお参り下さい。

正月御供 鏡餅料 受付中です

正月御供（一月末まで受付）

- ・酒類・お餅・米・野菜・果物
- ・菓子など

鏡餅料（十二月末まで受付）

・正月三日間、鏡餅を御神前にお供えいたします。千円以上のお申込となっております。



お下がりが授与されます。 郵送・書留等による申込受付中。詳細は社務所まで。

平成30年 厄年表 (数え歳)

	歳	前厄	本厄	後厄
男	61歳	昭和34年生	昭和33年生	昭和32年生
	42歳	昭和53年生	昭和52年生	昭和51年生
	25歳	平成7年生	平成6年生	平成5年生

	歳	前厄	本厄	後厄
女	37歳	昭和58年生	昭和57年生	昭和56年生
	33歳	昭和62年生	昭和61年生	昭和60年生
	19歳	平成13年生	平成12年生	平成11年生

編集後記
今回は諸般の事情により、いつもと異なる編集者にて作成致しました。お見苦しい点有りますが、暖かいお心でご覧頂けましたら幸いです。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一

Eメール syamuso@mikubi.or.jp

TEL(〇五八四)九一三三〇〇